

幾何学補正プロセッサ M811L

クイックスタートガイド



このたびは GeoBox 幾何学補正プロセッサをお買い上げ下さいまして、誠にありがとうございます。このクイックスタートガイドでは、機器接続方法および付属のリモコンを使用した基礎的な設定方法を簡単にご紹介します。

詳細は、以下 URL より取扱説明書をダウンロードしてご覧下さい。

<https://jmgs.jp/support/downloads/vns.html>



同梱品の確認

製品本体 / アフターサービス規定 / 電源コード / ねじ式ロック機構 AC アダプター / リモコン (単 4 電池 2 個付属) / リモコン延長用ケーブル

機器の接続方法

すべての機器が電源 OFF の状態から接続を始めて下さい。

1. ソース機器および表示機器と GeoBox の INPUT・OUTPUT 端子を繋ぎます。
2. GeoBox に付属の電源アダプターを接続し、電源スイッチを ON にします。
3. 表示機器の電源を ON にします。
4. ソース機器の電源を ON にします。

GeoBox のセットアップ

本書では、リモコンによる基本的な方法をご紹介します。

専用ソフトウェアによる操作方法等については取扱説明書をご参照下さい。

1. EDID の設定を行います。リモコンで OSD メニュー を呼び出し、Options > Setting > EDID から、入力解像度と同じ解像度を選択します。



2. 出力解像度の設定を行います。OSD メニューの Image Properties > Output Mode から任意の解像度を選択します。
3. 必要に応じて、映像の回転や反転を行います。OSD メニューの Image Properties > Rotation から任意の表示モードを選択します。
4. 幾何学補正機能で、投写映像を最終的に投写したいエリアに合わせて調整します。レーザー墨出し器等を使用し、予めスクリーンの水平・垂直位置の目印をつけておくと、より精度の高い補正を行うことが可能です。

- ① 最終的に映し出すエリアより大きく映像を投写します。元々の投写範囲を超えて幾何学補正をすると、範囲外にはみ出す部分は映像が切れます。映像は大きめに打ち出し、幾何学補正機能で縮小して調整を行って下さい。



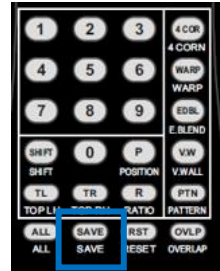
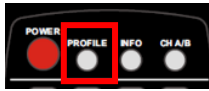
設定の保存と呼出

Profile 機能を使い、設定の保存を行います。リモコンの Save ボタンを押下した後、1～5 の番号を押下すると保存されます。設定を呼び出す際は Profile ボタンを押下した後、1～5 の番号を押下します。

※OSD メニューの Options >

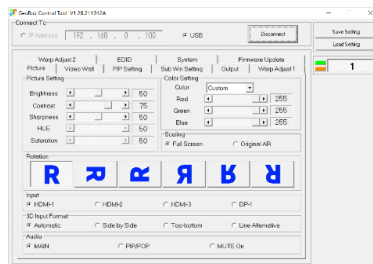
Setting >Profile > Load・Save から

同様の保存と呼び出しを行うことも可能です。



その他の設定方法

リモコン操作による設定の他、RS-232C コマンドによる制御、ネットワークまたは USB 経由で専用ソフトウェア GCT による制御、Web GUI による制御が可能です。



取扱説明書、コマンドリスト、ソフトウェア等のダウンロードにつきましては、弊社 Web ページよりご確認ください。また、Web 上では幾何学補正のデモ動画も公開しておりますので併せてご覧ください。